

2024年9月27日

町田美容専門学校

校長 中溝 京子 殿

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

2023（令和5）年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 鈴木 則子（東京都美容業生活衛生同業組合 組合員）
- ② 河島 健（一般社団法人 一生美容に恋する会 代表理事）
- ③ 長谷川 雅一（株式会社エムエイチ 代表取締役）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 2024年9月6日（会場 町田美容専門学校 図書室）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

【別紙】

I 重点目標について

1 重点目標①について

新型コロナ感染症が縮小してきたとはいえ、学校運営や学生指導においては教職員の方々のご努力は計り知れません。

カラーやカットデザイン等の授業では現役美容師の協力のもと実践練習ができ、学生にとってもとても有益な授業がおこなえていると思います。また、卒業生等によるデモンストレーションや講話は、学生の職業意識や学習意欲向上につながっているように思います。

ただし、以前より課題である職業意識や学習意欲にはレベル差があり、すべての学生に変化があるとは言い難いので、内容を再検討し、より一層充実を図る必要があると思います。

2 重点目標②について

コロナ禍を経て、学生指導には苦慮していると聞きます。ただ、挨拶、マナー教育の徹底は職業教育の根幹であり、将来の中途退職者にならない学生育成につながっていくと思います。より一層の指導を希望します。

普段の教職員との話し方、接し方から気を付けていくことが大事です。教職員にもそのことを意識した対応が必要だと思えます。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

- ・少子化対策として、榎本学園のブランディングをしていく時期にきている。普遍的なものを大切にしつつ、時代にマッチした将来的な構想を考える必要があると思います。
- ・頑張れる人を養育する教育機関として、これからも努力を続けてほしいです。

2 学校運営

- ・日常より、教職員間でコミュニケーションを図るとともに、動きの良さをいつも感じています。次世代への伝承を心掛けている様子が見られ、好感がもてます。
- ・業務効率化の推進のために、システム改革を少しずつ進めていると聞いています。各種の制度、システム、カリキュラム等、時代のニーズを的確にとらえ、変革改革を恐れず対応してほしいと思います。

3 教育活動

- ・今後も、世の中の情勢、社会の変化や時代のニーズを的確に読み、スピード感を持って対応してほしいと思います。
- ・選択授業など、今後もカリキュラム内容を精査し、新しいことへの挑戦も希望いたします。

4 学修成果

【別紙】

- ・国試合格率、就職率の良い結果に、教職員のサポート・粘り強い対話・指導力が表れていると思います。今後も継続されることを希望いたします。
- ・姉妹校と協力し、視野を広げるため、業界を超えた知識を授業に取り入れてはどうか。

5 学生支援

- ・学生がカウンセリングを活用していると聞いている。教職員の仕事量軽減にもつながっているように思います。コロナ期を過ごした学生たちのケアにも配慮をお願いしたいと思います。
- ・経済的理由から進路変更の学生を減らす意味でも、より一層の学費軽減制度の充実をお願いしたいです。学費負担の軽減を目的としたアルバイト進学制度や奨学金制度の拡大を望みます。
- ・卒業生の支援も重要です。入社後のサポート体制に不備不足感が否めません。企業との連絡を密にし、より一層サポート力を高める事を希望します。

6 教育環境

- ・実習・学科ともに最新の美容界を伝える意味で講師の切り替えも重要と考えます。
- ・防災対策、安全対策はしすぎることはありません。今後の更なる充実を希望いたします。
- ・若い時期に海外に行き見聞を広めることは人間形成において大いに価値があることなので、海外研修の復活を望みます。
- ・校舎がいつもキレイにされていて感心いたします。コロナ禍においても従来の指導徹底がよい影響を及ぼしているのだと思います。

7 学生の募集と受入れ

- ・榎本学園4校合同での広報活動がある一定ラインまではプラスになると思いますが、各業界の差を考慮した募集要項や社会人への広報ツールは検討する必要があると思います。
- ・派手さはなくとも、堅実な広報活動は榎本学園らしいと思います。今後も続けてほしいと思います。
- ・今後はSNS等をより上手に活用していくことを希望いたします。

8 財務

- ・現状に問題ないと思います。
- ・適正なものとして認知しています。

9 法令等の遵守

- ・現状に問題ないと思います。

10 社会貢献

- ・学生時代に、地域・社会への貢献やボランティアを体験できる機会があることが望ましいと

【別紙】

思います。

- ・地域の方から、イベントへの参加依頼の声がかかるのは、学生や教職員の皆さんが日頃から真摯に活動しているからだ后感心いたします。今後も、その姿勢を忘れずに活動を続けてほしいです。
- ・学生時代に芽生えた、社会の中で生かされている実感やボランティアの心が実社会でより一層成長するという考えに共感いたします。

以 上